

沢田幸治先生退職記念号に寄せて

経済学部長 齊藤 実

沢田幸治先生は、2011年3月31日付けをもって本学を定年となり退職されました。

先生は、早稲田大学第一文学部卒業後に、法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻に進学されました。その後先生は、1981年に本学に着任され、以来40年にわたって経済学部の教育にご尽力されるとともに、専門の研究に携わってきました。本学では、社会経済学を担当されました。

先生の専攻分野はマルクス経済学であり、とりわけ再生産表式を中心とした研究を精力的に行ってきました。その研究成果は、先生のご著書である『再生産論と現状分析—日本資本主義の戦前と戦後—』にまとめられております。この専門書で先生は、マルクス経済学の原理論である再生産論を現状分析に適応する問題点を考察するとともに、それを基準にして日本資本主義の現状分析を試みています。さらに共編者として出版された『現代経済と経済学』では「現代経済と農業」を担当され、農業と土地所有に関する理論と日本農業の問題と将来の展望を考察しています。このように先生は、マルクス経済学の理論をベースにして現状分析の可能性を追求する体系的な研究を行ってきました。

それだけでなく先生は、マルクス経済学の理論のさらなる進化に取り組みされました。最近の研究では、マルクスの「類=類的存在」概念に注目して、「類=類的存在」の概念が「社会的」に意味するばかりではなく、「自由で意識的存在」の意味を有することを明らかにし、さらには、この類的存在と類的存在の関係が政治的開放ならびに人間的開放の完成に結びつくことを分析しています。このように、マルクスの視点から人間の根源的なテーマに取り組みられています。

先生は、神奈川大学経済貿易研究所所長を3年間にわたって歴任されており、経済学部の研究の発展とその支援に指導的な役割を演じられました。また学内においては、これまで第二教務部副部長、入試センター副所長を歴任されており、大学の教務や入試など大学運営に重要な業務に携わってきました。

先生は穏やかな人柄で、そして教育者として優しいまなざしで学生を教育されてきました。東北なまりが入る独特の語り口を聞く機会が少なくなることは誠に残念です。幸いにも先生は、退職された後も本学の非常勤講師として学生の教育に携わっていただいております。引き続き経済学部の学生をご指導をいただくとともに、これまでの研究をさらに深化させていくものと期待しております。これからご健康に充分留意されて、お過ごしいただくことを願っております。